

昆虫類の早期発生について

堀田 久⁵

大阪管区气象台によると、猛暑の今年の夏は、昆虫や植物の様子がおかしく、異例の早さで鳴き始めたり、開花しているとのことである。筆者の観察によると、夏に限らず、今年（1994年）の4月以降、多くの昆虫について、例年より発生が早くなっているため、これまでに確認した成虫の初見日や、初鳴日などを報告しておきたい。

なお、この記録は、すべて洲本市安乎町北谷の自宅付近での自宅付近での観察によるものである。

1. ウ斯巴キトンボ *Pantala flavescens*
平年は7月下旬ごろから個体数が多くなり、群飛が見られるようになるが、今年は7月初旬から個体数が多くなり、特に7月下旬から8月上旬にかけては、これまでになかった、おびただしい数の群飛が見られた。
2. アブラゼミ *Graptosaltria nigrofuscata*
通常は、7月10日ごろから鳴き声を聞くが、今年は6月15日に羽化を確認し、6月29日に初鳴きを確認した。
3. ニイニイゼミ *Platypleura kaempferi*
早くても7月に入ってから現れるが、今年の初鳴日は6月25日であった。
4. ヒグラシ *Tanna japonensis*
通常は、7月に入ってから鳴き声を聞くが、今年は6月25日の明け方、初めて鳴き声を聞いている。
5. ミンミンゼミ *Oncotympana maculaticollis*
通常は、7月20日ごろから鳴き声を聞くが、今年は7月12日に鳴き声を聞いている。
6. ツクツクボウシ *Meimuna opalifera*
通常はお盆の頃から鳴き声を聞くが、今年は8月4日に鳴き声を聞いている。
7. ナガサキアゲハ *Papilio memnon*
通常5月中旬より春型が姿を見せる。これまでの最も早い記録は5月9日であったが、今年は5月1日に確認している。
8. モンキアゲハ *Papilio helenus*
通常5月中旬より春型が現れる。これまでの最も早い記録は5月5日であったが、今年は5月3日に確認している。
9. コミスジ *Neptis sappho*
これまでの最も早い記録は4月24日であったが、今年は4月21日に春型の雄を採集した。
10. アカシジミ *Japonica lutea*
通常は5月下旬から出現するが、今年は5月19日に確認している。
11. ヒメウラナミジャノメ *Ypthima argus*
通常4月中旬から見られるようになる。これまでの最も早い記録は4月6日であったが、今年は4月2日に確認している。
12. ジャノメチヨウ *Minois dryas*

5: 〒656 洲本市安乎北谷 630

通常は7月に入ってから出現する。これまでの最も早い記録は6月24日であったが、今年は6月16日に確認している。

13. サトキマダラヒカゲ *Neope goschkevitschii*
通常は4月中旬より出現する。これまでの最も早い記録は4月9日であったが、今年は4月5日に確認している。
14. チャバネセセリ *Pelopidas mathias*
本種は個体数が少なく、これまでは6月以降に見られたが、今年は5月19日に確認している。
15. タمامシ *Chrysochroa fulgidissima*
通常は7月に入ってから姿を見せるが、今年は5月31日の羽化を確認している。

(ほりた ひさし)

正誤表

PARNASSIUS No.40「淡路島の甲虫相」

頁	行	誤	正
1	欄外	兵庫県昆虫資料・285	兵庫県甲虫相資料・285
3	23	Troscidae	Throscidae

編集後記

- ▽ ここ数年来の異常気象は、局地的な集中豪雨といい、この夏の日照りといい、異常を超えたものを感じます。ビル・マッキベンの「自然の終焉」が現実のものとなりつつあるようです。淡路島ではこの夏50年来の早魃で、立木や水稻も少なからず枯死しました。堀田氏の報文にもあるように、昆虫の世界にも様々な影響が見られるようです。
- ▽ 次号は明年春に発行を予定しています。原稿をお寄せください。(TB)

PARNASSIUS No.41

1994年10月19日印刷 1994年10月22日発行
編集者 登日邦明 発行所 淡路昆虫研究会
〒656-21 兵庫県津名郡津名町大町畑235
郵便振替 01170-3-49591

印刷所 れいめい社

〒656 兵庫県洲本市本町5丁目1-24